

ひたすら再起を目指す人々に感動：：

一三班 小林 陽子

三月十一日の東日本大震災：：
今回現地を訪れることができました。ガレキの整理も道路の復旧もかなり進み、地元の方たちも普通の生活に戻りつつあり、少しずつ明るさを取り戻し来ているように思いました。

しかし、避難所で暮らしている人々にとっては毎日が大変です。共同生活をするためのルールがあり、僅かなスペースの中での四ヶ月の暮らし。他の方々への気遣いから来る息苦しさ、今までの生活環境に戻るかどうかの不安、仕事が見つからないことからのストレス等々、その心中は察するに余りあるものがありました。

救いは、みんなふるさと復興を願い辛抱強く生きようとしていることです。ご健康で一日も早く自立できることを願って止みません。

一日も早く普通の生活に戻れるように・・・

一一四班 竹内 きくみ

今回の気仙沼での被災地支援活動では様々な貴重な体験をさせていただきました。

避難所の方々の生活空間は独居の場合二畳強、二人世帯で四畳程度です。隣りとの境界は衝立のみ。

大声で話すこともできず咳をするのも気を遣いながらです。境遇が同じですから初めのうちは我慢しながら暮らしていたと思いますが、三ヶ月、四ヶ月するとストレス充満です。国や県の力で何とか一日も早くせめて仮設住宅へと思いました。最終日に気仙沼港周辺を目の当たりにしました。静かな海。この海があの地震とともに未曾有の大被害を招いたとは信じようがありませんでした。一日も早い復興、そして新たな発展を心からお祈り申し上げます。

山梨県福祉保健部長寿社会課の呼び掛けに応え、仁生園の小林陽子、竹内きくみ、浅川勉、森田悦子の四名の介護福祉士がそれぞれ一週間、七月いっぱい日程で応援に行きました。

宮城県気仙沼市の避難所に行ってきました！

市の総合体育館・・・今でも避難所として使われていて、多くの方々が生活をしています



四名は「とても感ずるところがあった。できればもっと大勢で応援に行っていきたい」と語っていました。

「夜の次には朝が来る。このことを信じてみんな元気で再起を目指されたい」などと語っておられました。ご苦勞様でした。

(掲載は派遣順です)

避難所生活にふれて：：

二班 浅川 勉

私たちは自立支援や日常介護を主に活動を行ってきました。避難所生活では居住区画、入浴、排泄とあらゆる面から不便さが伴い、身体機能の低下、認知症の進行につながる要素が数多く見受けられ、ボランティアや家族だけでは対応できない問題が浮き彫りとなっていました。高齢者だけではなく多くの避難所生活を送る方々との触れ合いもあり、震災時などの話を聞く中で近親を失った悲しみ、今後への不安、避難所生活でのストレス、プライバシーの問題、なおも続く余震、仮設住宅建設の遅れなど計り知れないほどの問題を抱えていることに気づかされ、国、県の対応の遅さに、マンパワーの限界を痛感しました。一日も早い復興を願います。

気仙沼市介護ボランティアに参加して

一一三班 森田 悦子

今回の大震災にあたり、何かできることはないかと考えていた矢先の派遣命令でした。

まず気仙沼港周辺の被災地を視察しました。被害の大きさに声も出ず、なぜこのようなことが起きてしまったのだろうと思うばかりでした。避難所に到着し、引き継ぎが行われ、担当シフトに分かれた後、支援に入りました。入浴介助、食事介助と自立支援に向け、少しずつ介助の内容を変えていきました。

皆様と話をしていると「全部流されたよ」「私も流されちゃえばよかった」「津波にのまれたよ」「津波の前は普通に歩いていたんだ」などと話され、まだまだ心の傷は癒える状況にないと痛感しました。今回の奉仕作業が終わっても何か自分に出ることを探し、ご支援申し上げたいと心中密かに思っています。

愛寿会だより

八月六日(土) 仁生園の夏祭り

8 月号
第 146 号
平成 23 年
8 月 10 日発行



雷雨のためプログラムの前半は室内になりました。冒頭みんなで「これから音頭」を唄い踊りました。「喜寿も米寿も白寿も無事に 越えてみせるの 心意気 まだまだ じんせい これからだ」です。

料金後納
郵便

差出人(差出発送代行)
7-4
佐川物流サービス(株)
返送先: 〒140-0012
品川区勝島 1-1-1
このお荷物は「依頼人様からお預かりした荷物を当社が差出人となって発送代行いたします。」

夏祭り 両園とも例年に増し、盛大に開催しました

仁生園夏祭り実行委員会委員長 藤森とよ子
第二仁生園夏祭り実行委員会委員長 渡邊理恵

今年の夏祭りは仁生園が八月六日(土)、第二仁生園がそれより一足早い七月二十七日(水)でした。八月六日は雷雨に見舞われ、プログラムの前半は室内、後半は屋外の開催となりました。七月二十七日は天候に恵まれました。天候の如何にかかわらず、両園とも盛大に実施することができ、安堵しています。

私どもは、利用者の皆様が退屈することがないよう、年間をとおして誕生会、模擬喫茶、華道の日、シヨッピングの日、映画の日等々さまざまな工夫を凝らしています。その中で、利用者の方々が最も期待を抱いているのはやはり夏祭りです。

それだけに実行委員会も「これまで以上に盛大に：」との思いが強く一カ月ほど苦心の毎日が続きます。

ご家族の皆様参加も例年よりずっと多かったと思います。ご家族と食事をしたり、団欒している利用者の皆様の表情は本当に満足そうでした。

なお、今年も大勢のボランティアの皆様にご協力をいただきました。

また、夏祭りに要した費用は全額愛寿会後援会でご負担くださいました。感謝申し上げます。



「つながろう日本! つながろう第二仁生園」をスローガンに掲げた第 4 回目の夏祭り

毎号四頁に掲載の「感謝」の記事は都合により九月号に一括掲載させていただきます。ご了承ください。

仁 生 園 の 夏 祭 り



屋台 祭りの当日、日清医療食品(株) ボランティアのみなさまが焼き鳥、焼きそばなどを提供してくださり、こちらは天候に関係なく、利用者のみなさまをはじめみんなで舌つづみを打ちました。



「フラアロハひまわり」のみなさんによるフラダンス、5曲をご披露くださいました。利用者の皆さまも手拍子を取り、若き日を思い出している風情でした。

準備 「8月6日が快晴であるように……」と祈りながら職員総出動で、草刈り、草取り、庭の清掃等々に汗を流し、祭りの準備を進めました。8月4日には、保護部会小泉地区の皆さまが、総仕上げをしてくださいました。



北桂市長 さんが夏祭りに駆けつけてくださいました。白倉政司市長さんはご挨拶のあと、「おかあさんの歌」を唄ってくださいました。突然のことでみんなびっくり…アンコールの声に応え、三番まで熱唱でした。



踊り 雨上がりの前庭で「杜の舞・髪」のみなさんにより「よさこいソーラン」など数曲を楽しませていただきました。お子さんも加わっての熱演に大拍手……



花火 夏祭り最後は恒例の花火の打ち上げ…「ナイアガラ」がとてもきれいで感嘆の声がしきりでした。



第二仁生園の夏祭り

合唱 八ヶ岳歌仲間のみなさんと一緒に歌った「見上げて
ごらん夜の星を」「青い山脈」…そして、利用者の篠原良雄
さんが作詞した第二仁生園の歌「絆」を高校三年生の替え歌
で合唱しました



展示 作業所では絵画、書道、陶芸、木工等々利用者の
手作りの作品を展示、大勢の皆さまにご覧いただきました。



盆踊り 真ん中に重度の利用者、次に車いすの利用者、外側に保護者、
ボランティア、一般のみなさんによる輪を作り「武田節」「炭坑節」を楽し
く踊りました

太鼓 利用者4人が「花笠音頭」「東京音頭」をみごとに
披露…太鼓も3年目、めっきり腕も上がりました



白井市復九六九番地湯浅正昭・栄子ご夫妻と湯浅四郎・昌
枝ご夫妻は、住居も近くご家族ぐるみのご交際だそうです。
この度は、四人で昌枝様の生地をお訪ねになりました。
正昭様は「藜（あかぎ）」を原材料に、うるし塗の杖を作る
特技をお持ちだそうです。
四郎様ご夫妻から仁生園・第二仁生園の話を聞き、入所者
に四十本の杖をご持参いただきました。あかぎの杖は不老長
寿の杖と言われ白井市の特産品だそうです。

湯浅正昭・栄子様ご夫妻から藜（あかぎ）の杖寄贈



後列右から2人目が湯浅四郎様
同じく後列左から湯浅正昭様、栄子様、昌枝様

七月二十六日、湯浅四郎・昌枝様ご夫妻仁生園訪問
千葉県白井市復一四五七・三五番地、湯浅四郎・昌枝ご夫
妻は、長野県富士見町にお住まいだった昌枝様のご両親が創
設間もない仁生園でお世話になったからとして、三十余年欠か
さず入所者に白井市名産の梨「豊水」を贈ってくださいってい
ます。その湯浅様ご夫妻が七月二十六日仁生園をお訪ねに
なりました。今年も八月末にご贈呈くださるとのことで感謝
です。